

[総合的な学習の時間]

児童の協働性の動機付けに関する一考察
-「遊びランド」による園児との交流活動を通して-

寺岡 幸作*

1 問題の所在と目的

中央教育審議会(2021)は「令和の日本型学校教育(答申)」の中で、多様な他者と協働しながら、他者を価値ある存在として尊重し、必要な資質・能力を育成する「協働的な学び」を充実することが重要であると述べている。また、赤坂(2018)は、「資質・能力の中核は、協働的問題解決能力」と主張している。これらのことから、児童の協働性の向上は、学校教育が育むべき資質・能力の根幹を成すものになり得ると考えられる。

文部科学省(2017)は、総合的な学習の時間の目標の1つとして「探究的な学習に主体的・協働的に取り組む」ことを掲げている。奈須・久野・藤本(2008)は、「問題の解決や探究活動では、主体的で創造的であればあるほど、他者との協働を求めるようになる」と述べている。また、加納(2016)は、「目の前の課題がより大きく、より切実なものになればなるほど、個の学びから協働的な学びに発展する」としている。これらのことから、他者との協働性を高めるためには、児童が主体性を発揮し、仲間と協働したいと思えるように動機付けられることが重要であることが窺える。

他者との協働性を動機付けの視点で調査した岡田(2008)によると、友人との学習活動を促すには、児童がもつ動機付けに教師が働き掛けることが有効であると主張している。岡田(2014a)は、仲間との協働的な学習に対する動機付けのタイプを内発的動機付け、同一化的調整、取り入れ的調整、外的調整の4つに概念化している。自己決定理論において、これらの動機付けの在り方は様々な環境的要因によって影響を受けることが想定されている。そして、その影響の方向性を決める要因として、3つの基本的な心理的欲求(自律性欲求、有能感欲求、関係性欲求)の充足を重視している。自律性欲求は、自身の行動の起源でありたいという欲求である。有能感欲求は、様々な活動を通して能力を高めたいという欲求である。関係性欲求は、他者と温かい関係を築きたいという欲求である。環境がこれらの欲求を充足するとき、より自律的な動機付け(内発的動機付け、同一化的調整)が高まるとされている。これらのことから、自律性欲求や有能感欲求、関係性欲求を感じられるような協働的な学習を設定することは、協働的に問題解決していこうとする動機付けを促進することにつながると推察できる。

しかし、総合的な学習の時間の活動における児童の協働性の向上を動機付けの視点で検証した研究は管見の限り見当たらない。そこで、児童の協働性がどのように動機付けられ、高まっていくのか検証することを本研究の目的とする。

2 研究構想

(1) 調査対象・調査期間

新潟県公立小学校 第3学年A組 21名(男子9名・女子12名)／令和5年5月8日～令和5年12月21日

(2) 研究構想

① 実践の概要

- ・活動名：チャレンジ学年！ラブ&ピースプロジェクト！
- ・ねらい：遊びを通して、自分も周りの人も元気にする。

表1 総合的な学習の時間活動計画

月	活動内容	活動のねらいについて
5	・みんなが仲良くなる遊びを考え、提案し合おう。	他者との遊びを通して、仲良くかわることのよさを感じさせる。また、周りを元気にすることのよさを感じさせる。
6	・全校児童が仲良くなるために、遊びを企画しよう。	
7	・他校の児童と遊びを通して仲良くなろう。	

*長岡市立神田小学校

8	・これまでの遊びを振り返ろう。	来てくれた人を楽しくさせるための遊びを進化させる。そのために、遊びチームを作り、準備の時間を設ける。また、遊び当日には声掛けや優しいサポートで元気づけることも意識させたい。
9	・これからの遊びの計画を立てよう（遊びランド計画）。	
10	・全校や園児と仲良くなるために、遊びランドで交流する。	
11	・遊びランドを進化させよう。	
12	・コミュニティセンターで地域の方と交流しよう。	
1	・雪上遊びを企画し、全校児童と楽しもう。	他者との遊びを通して、かかわるよさや遊びのよさについて振り返り、発信していく。
2	・活動をまとめ、遊びのよさを発信しよう。	

加納（2016）は「3年生では、いきなり地域へ参画するよりも、生活科の経験を生かし体験的で探究的な学習のプロセスを学ぶことを優先すべきである」と述べ、小学校3年生の総合的な学習の時間を構想・展開する上で、生活科の学びを生かすことの重要性を報告している。また、岩野・西端（2017）は、「子どもにとっての『遊び』とは、自分で発見し、自分で選んだ課題を自分なりの方法で実現し、達成していく活動である」と述べている。このことから、生活科で経験した遊びの要素を取り入れた活動することは有効であることや、遊びには問題解決的な学習が必然的に繰り返される要素が含まれていることが分かる。さらに、加納（2016）は「協同的に学ぶよさや魅力を経験していくほうが、児童期においては効果的なカリキュラムの在り方である」と指摘しており、総合的な学習の時間の入門期において、他者と協同的に学ぶことが重要であることが窺える。これらのことから、本実践では、遊びを通して、自分も周りの人も元気にすることをねらいとしながら、他者とかかわる活動を通して、協働性を高めていく。なお、本研究での協働性を「進んで他者とかかわり、活動しようとする態度」と定義する。また、「協同」、「協働」、「協同的な」、「協働的な」等の違いについては未だ定まった統一見解がなく、包括的な意味で使われている（関田・安永、2005；杉江、2011）ため、本研究では、「協同」、「協働」等を同義として捉える。

3 効果の測定材料と分析方法

(1) 協同的な学習における心理的欲求の充足尺度

児童の協同的な学習に対する心理的欲求の充足の度合いを調べるため、岡田（2014b）によって作成された協同的な学習における心理的欲求の充足尺度を筆者が一部修正し、現職経験10年以上の小学校教諭2名とともに協議の上作成したものをを用いる。この尺度は、仲間との協同学習における心理的欲求の充足を尋ねるものであり、自律性欲求の充足、有能感欲求の充足、関係性欲求の充足の3下位尺度からなる。本研究では、児童がどのように動機付けられて協働性が高まるのか詳細に検証するため、児童全体の尺度の変容のみならず、平均値以上を上位群、平均値未満を下位群として分類し、それぞれの群の尺度の変容も分析する。なお、本尺度は9月にプレテスト、11月下旬にポストテストを実施し、分析には、「js-STAR」の対応のあるt検定（参加者内）を用いる。

(2) 協同的な学習に対する動機付け尺度

児童の協同的な学習に対する認識や協同的な学習における心理的欲求の充足尺度との関連を調べるため、岡田（2014a）によって作成された協同的な学習に対する動機付け尺度を用いる。この尺度は、仲間との協同学習に対する動機付けを尋ねるものであり、内発的動機付け、同一化的調整、取り入れ的調整、外的調整の4下位尺度のある内、内発的動機付け、同一化的調整の2尺度を分析対象とする。本研究では、児童がどのように動機付けられて協働性が高まるのか詳細に検証するため、児童全体の尺度の変容のみならず、平均値以上を上位群、平均値未満を下位群として分類し、それぞれの群の尺度の変容も分析する。なお、本尺度は9月にプレテスト、11月下旬にポストテストを実施し、分析には、「js-STAR」の対応のあるt検定（参加者内）を用いる。

(3) 質問紙調査と自由記述の分析

児童がどのような認識で活動に臨んでいるのか把握するため質問紙調査（表2）と自由記述を実施する。KH Coder Ver. 3（以下、KH Coder）用いて分析したり、抽出児の自由記述を分析したりする。

表2 質問紙調査項目内容

1	遊びランドの活動に進んで取り組みましたか。（進んで取り組んだ・進んで取り組んでいない・どちらとも言えない）その理由も答えましょう。
2	遊びランドの活動によさはありましたか。（はい・いいえ・どちらとも言えない）どのようなよさがありますか。また、いいえとどちらとも言えないと答えた人は、その理由も書きましょう。

4 研究の実践と考察

(1) 実践

① 「遊びランド」実施に向けて（9月～10月）

これまで全校遊びの企画・運営を経験した対象学級の児童は、9月の話し合いの中で、以前に案として挙がっていた

「遊びランド」の実施を望むようになった。遊びランドは、対象校のグラウンドを舞台に手作りの様々な遊具で遊ぶ活動である。次の話し合いで、全会一致で遊びランドを行うことが決まった。また、遊びの対象は、幼保小連携の観点から、近隣の幼稚園・保育園の園児を招き、活動を行うこととなった。対象園児を楽しませるために、話し合いの結果、「つな登り」「滑り台」「魚釣り」「どんぐり拾い」「ウォークラリー」「的当て」に決まった。遊び開設の条件として、「学校の道具を使い自分たちの協力でできること」「危険でないこと」とした。各遊びチームの話し合いはもちろんのこと、9月からの全員での話し合いは全て児童が司会と書記を担い、進行するようになった。この動きは、児童自ら「話し合いを自分たちでしたい」という希望から実施した。10月下旬の本番に向けての準備では、担任から指示がなくても児童自らが内容を考え、実際に自分たちで遊びながら園児たちが危なくないか、楽しんでくれるか試行錯誤を繰り返し準備を進めた。また、普段、係活動のイベントで行っているプレゼント作りを今回の遊びランドでも行っていた。遊びの内容だけでなくプレゼントまで考えるなど、相手意識を高くもって準備をしている様子が窺えた。

② 「遊びランド」1回目の様子(10月17日)

遊び方やルールを丁寧に説明したり、園児が上手く遊べるようにサポートをしたり「頑張れ!」「すごい!よくできたね!」など、園児を元気づける言葉掛け等が多く見られた。児童は遊びランドを盛り上げようと全力で園児に向き合っていた。遊び終了後、園児から「またやりたい」「楽しかった」という言葉をもらえてうれしそうであった。また、活動の一部始終を参観した対象校の職員が「声掛けが良かったですね」「温かい言葉掛けや接し方でびっくりしました」と児童を褒めていた。活動後の話し合いでは、「今度は違う園の園児と活動してみたい」と園児とのかかわりを前向きにとらえている児童が多く見られた。一方、運営面で改良ができる点についてチームで話し合う場を設けることで、改善点を発見し、改良しようとする児童の姿も見られた。1回目の遊びランド終了時に、クラス全員が「今度は違う園の園児と遊びたい」という願いをもっていたため、児童が作った遊びランドのチラシを他の園に届け、交流を依頼した。

③ 「遊びランド」2回目の様子(11月22日)

外での活動の予定であったが、天候や園児の体調面を鑑み、体育館での開催となった。児童にそのことを告げると、少し残念がる姿はあったが、切り替えて体育館でできる遊びを新たに考えた。内容を大きく変えるチームと外での活動内容を体育館用にアレンジするチームが見られた。6つのチームは、「つり⇒つり宝探し」「ウォークラリー⇒そのまま」「滑り台⇒車でピタリ!」「どんぐり・葉っぱ集め⇒玉入れ・なぞなぞゲーム」「綱登り⇒平均台ドンジャン」「的当て⇒おばけの宝探し」のように工夫を凝らした遊びランドを考え、学校にある道具を使い準備を進めた。

当日は、6分間隔で園児が各遊びをローテーションしていきながら活動を行った。始めの会や終わりの会等を含め、全体の進行も児童が行った。各遊び場では、児童がルール説明や進行、補助、温かな声掛けなど、率先して園児を楽しませようとする姿が見られた。さらに、待ち時間を退屈させないように、その時に考えた新たな遊びをして園児を楽しませるチームも見られた。1回目の時同様に、周りにいた園の先生は「盛り上げるのが上手ですね」「声掛けがうまい」など児童の温かな言葉掛けや接し方を褒めてくださった。また、特別支援学級の児童も前回と同様に、自分ができること(BGM流し・玉入れの手伝い・片付け)などを率先して行う姿が見られた。最後に、昼休みの時間を使って作ったプレゼントを園児にも先生方にも渡した。とても喜んでくれる姿を見たり感謝の声をかけてもらったりしたことで、児童は笑顔であった。

(2) 尺度の結果

① 協同的な学習における心理的欲求の充足尺度

表3から、尺度全体に有意な変容は見られなかったものの、活動実施前と後では、正の変容をしている。次に、上位群と下位群で比較、分析したところ、下位群に有意な変容が見られた。上位群は天井効果のため、有意な変容は見られ



写真1 話し合いの様子



写真2 1回目の活動の様子



写真3 2回目の活動の様子

なかった。このことから、「遊びランド」の活動を通して、児童の協働的な学習における心理的欲求が強く満たされたことが分かった。

表3 協同的な学習における心理的欲求の充足尺度の結果（全体） * $p<.05$ ** $p<.01$

	9月7日	11月27日	$N=21$
	Mean(S.D)	Mean(S.D)	t 値
全体	39.00(5.94)	40.52(4.41)	1.6185 $n.s.$
上位群	43.91(1.68)	43.27(1.60)	1.2571 $n.s.$
下位群	33.60(3.93)	37.50(4.54)	2.4124*

② 協同的な学習に対する動機付け尺度

表4から、尺度全体に有意な変容は見られなかったものの、活動実施前と後では、正の変容をしている。次に、上位群と下位群で比較、分析したところ、下位群に有意な変容が見られた。上位群は天井効果のため、有意な変容は見られなかった。このことから、「遊びランド」の活動を通して、児童の協働的な学習に対する動機付けが有意に高まったことが分かった。

表4 協同的な学習に対する動機付け尺度の結果（全体） * $p<.05$ ** $p<.01$

	9月7日	11月27日	$N=21$
	Mean(S.D)	Mean(S.D)	t 値
全体	27.90(3.07)	28.67(1.96)	1.1035 $n.s.$
上位群	29.53(0.81)	29.13(1.78)	0.7919 $n.s.$
下位群	23.83(2.85)	28.33(1.70)	5.5902**

以上のことから、協同的な学習における心理的欲求が有意に高まったことで、協同的な学習に対する動機付けも有意に高まったことが分かった。つまり、仲間や園児たちと行う「遊びランド」は、児童の協同的な学習における心理的欲求を満たし、かかわり学び合う動機付けを高めたことが明らかとなった。

(3) 質問紙調査分析

表5 質問紙調査結果

遊びランドに進んで取り組んだか	遊びランドのよさ
進んで取り組んだ…21人 【主な理由】 ○みんなを楽しませられたから(6人) ○準備や進行を楽しみながら協力できたから(14人) ○みんなで仲良くできたから(1人)	よさがある…21人 【主な理由】 ○園児が「楽しい」と言ってくれたり、プレゼントを喜んでくれたりして、活動を楽しんでくれるところ(15人) ○園児のために遊びやプレゼントをつくること自体が楽しいところ(4人) ○仲良くなったり分かり合えたりするところ(2人)

表5の質問紙調査の結果、児童全員が「遊びランド」にはよさがあり、進んで取り組んだことが分かった。その主な理由の1つ目として、「みんなを楽しませられたから」や「園児が『楽しい』と言ってくれたり、プレゼントを喜んでくれたりして、活動を楽しんでくれるところ」のような相手を喜ばすことができたという児童の有能感の欲求が園児の反応によって充足されたことが考えられる。2つ目の理由として、「準備や進行を楽しみながら協力できたから」のように、仲間と協力し楽しみながら活動準備ができたり、「みんなで仲良くできたから」「仲良くできたり分かり合えたりするところ」のように、園児と仲良くなることができたりするなど、仲間や園児との関係性欲求の充足が考えられる。さらに、3つ目の理由として「園児のために遊びやプレゼントをつくること自体が楽しいところ」「準備や進行を楽しみながら協力できたから」のように、各遊びチームの中で仲間と仲良くかかわりながら、個々にやりがいをもって活動できているという自律性欲求の充足があったことが考えられる。

(4) 自由記述分析

① 遊びランド1回目

自由記述をKH Coderで分析すると、総抽出語数は2379語で、表6に示すように「思う」「子」「楽しい」「遊ぶ」「幼稚園」等が多く抽出された。図1の共起ネットワークを見てみると、「思う」「楽しい」や「幼稚園」「楽しむ」が強く結び付いている。このことから、児童は園児との遊びを楽しむことができたことが分かる。次に、より多く出現した頻出単語についてKWIC コンコーダンスというコマンドを用いて検索すると、「(園児の) 中には『もう1回やりたい』と言っていたらしく、もう1回来てくれました。楽しそうでした」「プレゼントをあげました。色々な子が喜んでくれてうれしかったです」「ほとんどの子がタッチをし

表6 抽出語頻度表

抽出語	頻度
思う	24
子	21
楽しい	17
遊ぶ	10
幼稚園	10
遊び	9

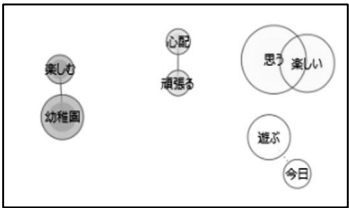


図1 遊びランド1回目の共起ネットワーク

て手をふってくれたのでうれしかったです」など、自分たちが準備したものやかかわりを園児が楽しんでくれたことに児童が喜びを感じていることが分かる。つまり、児童の有能感や園児との関係性の欲求が充足されたことが分かった。

② 遊びランド2回目

自由記述をKH Coderで分析すると、総抽出語数は3088語で、表7に示すように「幼稚園」「遊ぶ」「楽しい」「子」「思う」「遊び」「チーム」等が多く抽出された。次に、図2の共起ネットワークを見てみると、「遊ぶ」「チーム」「楽しい」「思う」「言う」が強く結び付いていることが見て取れる。このことから、園児との遊びを楽しんでいるとともに、チームが考えた遊びを楽しんでいることを認識していることが窺える。より多く出現した頻出

表7 抽出語頻度表

抽出語	頻度
幼稚園	26
遊ぶ	21
楽しい	19
子	17
思う	17
遊び	17
チーム	13

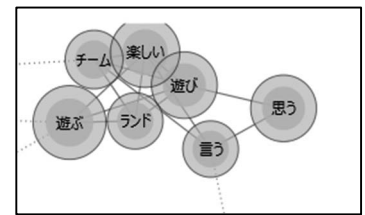


図2 遊びランド2回目の共起ネットワーク

単語について検索すると、「待つ時間を楽しめるように、急きょ魚かるたをしました。そしたら、『楽しい』とたくさんの子が言ってくれたので、ちょっとの工夫で分かるのだなと思いました」「どんだんいろいろな幼稚園の子たちと一緒に遊べたらいいなと思いました。次はどんな幼稚園の子たちと遊ぶか今から楽しみです」「最初はプレゼントの折り紙が少なかったけれど、チームのみんなが放課後に折り紙を作ってきてくれてうれしかったです」など、園児を楽しませるために工夫を加えたチームが多く見られたり、次も園児との遊びを楽しみにしている様子が見られたりした。また、当日までのチーム内での準備で協力できたことに充実感を感じている記述も見られた。これらのことから、児童を楽しませることができたという有能感欲求の充足や、園児や仲間との関係性欲求の充足が見られた。

(5) 抽出児の自由記述

尺度の数値が有意に上昇した児童2名（A児、B児）を抽出して分析する。

A児は、これまでの総合的な学習の時間であまり達成感をもてていなかった。その理由として、5月に行った全校遊びでの説明があまり上手いかず話を聞いてもらえなかったり、準備をしたことが当日に上手いかなかったりしたからである。しかし、今回の「遊びランド」では、チームメンバーと入念に打ち合わせ、休み時間も活動の準備に励んでいた。その結果、当日は、園児に喜んでもらいたいと願い、説明や進行に進んで取り組む姿が多く見られた。自由記述を見ると、A児は、2回の遊びランドで、園児が楽しんでいる様子から自分たちが「準備したかいがあった」や「みんなを呼びたくて仕方ありません」と述べている。また、チームの仲間と役割を決め、遊びランドの準備をすることに楽しさを感じていた。これらのことから、園児の喜ぶ姿と仲間との協働にやりがいや面白さを見出す等、児童の「楽しませられた」という有能感欲求の充足や「仲間と協力して活動できた」という関係性欲求の充足、「チーム内で役割を全うできた」という自律性欲求の充足が見られた。

表8 A児の自由記述

1回目の遊びランドについてのA児の自由記述	2回目の遊びランドについてのA児の自由記述
今日、交流活動で、幼稚園の子たちがきてくれて一緒に遊びました。わたしたちのグループは、的当てと紙コップたおしをして幼稚園のみんなと遊びました。 <u>意外と思ったより大変でびっくりしました。幼稚園たちはとても楽しかったようで、やったかいがあったと思います。また来てくれると嬉しいなと思いました。</u>	わたしは、今日、おばけ宝探し迷路をしました。みんなで役決めをして、Zちゃんと、Yちゃんは、きょうだいのおばけ役で、わたしは、物音と、叫び声をやって、Xちゃんは、説明と案内役をしました。 <u>一回だけみんなの役をかえたりしてみんなもきつ、「楽しかったな」「もっとやりたいな」「またやりたいな」と思ったと思います。わたしは、みんなが、考えた遊びもやりたいなと、思いました。また、みんなを呼びたくて仕方ありません。今度もやりたいなと思うばかりです。次はまたちがう保育園や幼稚園たちと遊びたいです。</u>

次に、B児は、最初はあまり相手意識をもっておらず、園児を喜ばそうと進んで準備をする姿は見られなかった。むしろ、活動が成立するのにか心配していた。しかし、「遊びランド」当日、園児が安心してそり遊びができるようにサポートする姿が見られた。また、2回目の「遊びランド」に向けてプレゼントづくりや活動準備等に、意欲的に臨んでいる姿が見られた。自由記述を見ると、1回目の遊びランドでは、園児とのかかわりや活動自体にまだ慣れていない様子で「とてもきんちょうしました。」と述べている。しかし、2回目の自由記述では、本番での進行が大変だったが、園児が笑顔で活動していたことや、プレゼントを渡した時に感謝されたことにやりがいやうれしさを強く感じていた。これらのことから、仲間との準備や進行は大変だったが、その分、園児の楽しんでいる姿や感謝されたことにやりがいやうれしさを感じるようになったことが窺える。つまり、対象となる園児とのかかわりが良好になったことで関係性欲求が充足され、園児が喜んでくれたことによる有能感欲求が充足された。また、仲間と協力しながら園児のために自分なりに努力したことによる自律性欲求の充足により、協同的な学習に対する動機付けが上昇したと推察される。

表9 B児の自由記述

1回目の遊びランドについてのB児の自由記述	2回目の遊びランドについてのB児の自由記述
今日、幼稚園のみんなと3年生との交流活動がありました。わたしが、幼稚園児と遊んだのは、そり遊びチームです。幼稚園の子たちがとても上手でした。お手本をやる時、とてもきんちょうしました。なぜかという幼稚園の子たちが上手だからです。わたしは、この幼稚園から来たので知ってる先生がいてとてもうれしかったです。また、幼稚園のみんなと交流活動がしたいと思いました。	今日、幼稚園との交流活動がありました。幼稚園との交流活動では、さいしょ、グラウンドでやり、次に体育館でやりました。遊びランドの車遊びチームでじゅんびしているときは、たいへんだったけど、本番でやっているときに園児のみんながにこにこ笑顔でやってくれたのでうれしかったです。最後に、プレゼントをわたす時に「ありがとう」と言ってくれたので本当にうれしかったです。また交流活動がしたいと思いました。

5 結論と課題

本研究では、総合的な学習の時間において、児童の協働性がどのように動機付けられ、高まっていくのか検証することを目的とした。検証の結果を以下に示す。

まず、尺度の結果から、児童は協働的な学習における心理的欲求が強く充足され、協働的な学習に対する動機付けが有意に高まったことが分かった。つまり、総合的な学習の時間における「遊びランド」の活動を通して、友だちと協力して活動することに意義を見出し、進んで協働していこうとする動機付けが高まったことが分かった。

また、質問紙調査や自由記述の結果から、園児を喜ばすことができたという児童の有能感欲求が園児の反応によって充足されたことや、仲間と協力し楽しみながら活動準備ができたり、交流を通して園児と仲良くなることができたりするなど、仲間や園児との関係性欲求の充足が見られた。また、各遊びチーム内で仲間と仲良くかわりながら、個々にやりがいをもって活動できているという自律性欲求の充足が見られた。

さらに、活動の目的や内容、準備等について児童に任せ、自分たちで進める場を設けることで、「『遊びランド』は自分たちの活動である」という当事者意識をもち、進んで活動に励む姿が見られるようになった。この行動は、自分たちに任せられたという自律性欲求が満たされたことで見られたものと推察される。また、活動後の対象校の職員や園の先生からの肯定的なフィードバックにより児童の有能感欲求が満たされたことが、主体性や協働性の発揮につながったと考えられる。

以上のことから、「遊びランド」の活動を通して、3つの協働的な学習における心理的欲求が充足されることで、進んで協働していこうとする協働性の動機付けが高まったことが明らかとなった。

本研究では、児童の認識を中心に協働性がどのように動機付けられるのか検証することができたが、児童の行動や発言においても丁寧に分析することで、より包括的に児童の協働性の向上について検証ができると考えられる。また、総合的な学習の時間では、探究のスパイラルが重要視されている。1年間を通して他教科との関連を図りながら児童がより探究心を高められるようにカリキュラム開発や動機付けの方法を模索していきたい。

【引用・参考文献】

- ・赤坂真二「資質・能力を育てる問題解決型学級経営」（明治図書）2018
- ・岩野清美・西端幸信「子どものつぶやきから練り上げる『遊び』活動の有効性」（和歌山大学教育学部研究紀要）2017
- ・岡田涼「友人との学習活動における自律的な動機付けの役割に関する研究」（教育心理学研究）2008
- ・岡田涼「児童における仲間との協働的な学習に対する動機付け－尺度の作成と学年差の検討－」（香川大学教育学部研究報告）2014a
- ・岡田涼「仲間との協働的な学習における心理的欲求の充足」（日本パーソナリティ心理学会論集）2014b
- ・加納誠司「児童前期における生活科から総合的な学習の時間への接続・発展を図る研究－2年生・3年生の実践分析からのアプローチ－」（日本生活科・総合的学習教育学会誌）2016
- ・杉江修治「協同学習入門－基本の理解と51の工夫－」ナカニシヤ出版 2011
- ・関田一彦・安永悟「協同学習の定義と関連用語の整理」協同と教育 1 pp.10～17 日本協同教育学会 2005
- ・中央教育審議会「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して－全ての子供たちの可能性を引き出す個別最適な学びと協働的な学びの実現－」2021
- ・奈須正裕・久野弘幸・藤本勇二「小学校学習指導要領の解説と展開 総合的な学習編Q&Aと授業改善ポイント：展開例」（教育出版）2008
- ・文部科学省「小学校学習指導要領解説（総合的な学習の時間編）」（東洋館出版）2017